

平成 19 年度障害者自立支援調査研究プロジェクト 事業実施報告概要

事業名	地方の単科精神科病院が行う退院促進、地域定着のための、ACT および ACT に類似した手法を用いた、利用者の主体性を尊重した支援プログラムの開発についての研究
事業目的	<p>社会的入院とされる軽度精神障害者の地域移行、そして中等度～重度精神障害者の入院抑制を実現するために、現行の医療保険制度の範囲内で、最大限の効果を得る在宅支援プログラムの作成を目指す。</p> <p>ACT(包括型地域生活支援)を活用するが、利用者を重度精神障害者に限定するACTを恣意的に改変すると、効果が低下するおそれがある。そこで1つの支援チームで、軽度から重度の多様なニーズに対応できるような、複数のプログラムを持つことにより、継続性、普遍性、採算性を持った支援方法を検討する。</p>
事業概要	<p>正光会訪問看護ステーション(宇和島)で、品質基準を遵守した ACT、サービス濃度を下げ対象者を拡大した ACT 類似の支援、従来の訪問看護の 3 つのプログラムを混在させて行う。PSW、看護師、医師による多職種チームで、病状管理に偏りがちだった訪問看護から脱却し、ACT の基本理念に準じた、利用者主体の生活支援を行う。御荘病院は、数十年来地域づくりに取り組み、従来型の訪問看護で入院抑制に一定の成果を上げている。地域づくりに着手していない宇和島において行う支援プログラムと、御荘病院の訪問看護を比較し、有効な要因を抽出する。そしてそれらを組み合わせ、今後どのような支援プログラムが必要であるか検討していく。</p>
事業実施結果及び効果	<p>5名のスタッフからなるチームで、訪問看護ステーション(宇和島)で行った上記3つのプログラムは、各々の対象者を3群に分けた併存が可能であり、多様な利用者のニーズに対応することができた。サービス開始前後を比較すると、宇和島、御荘とも、入院期間は短縮していたが、宇和島ではより重度の対象者が多く、また精神症状が軽減し、生活機能も改善していた。サービス内容は、宇和島では、重度の対象者が多いため、病状管理の頻度が多かったが、 も多く、PSW のスタイルが貢献していることも伺えた。これらのことから、地域づくり未着手でも、工夫により、質と採算性を保った有効なプログラムを、医療機関が開始できることが分かった。</p>
事業主体	<p>財団法人正光会 〒798-0027 愛媛県宇和島市柿原 1280 電話</p>